

ENDLESS SPORTS

スーパー耐久シリーズ 2021 第2戦

ご報告書

4月17日（土）～4月18日（日）に
スポーツランド SUGO で行われました
スーパー耐久シリーズ 2021 第2戦における
[3号車 ENDLESS AMG GT4]
レース結果を以下の通り、ご報告申し上げます

開催日：2021.4.17～4.18

サーキット：スポーツランド SUGO

チーム体制：エンドレススポーツ

ドライバー：内田優大／山内英輝／菅波冬悟

予選結果：4位

決勝結果：2位

シリーズランキング：ST-Z CLASS 7位

[予選／4月17日(土)] 3号車 4位

A ドライバー／内田優大…… 3位 PM 12:50～1:05 ウェット

B ドライバー／山内英輝…… 6位 PM 1:50～2:05 ウェット

C ドライバー／菅波冬悟…… 3位 PM 2:30～3:15 ウェット

第2戦の舞台はスポーツランド SUGO。

サーキットのある村田町に隣接する宮城県仙台市は、いち早くまん延防止等重点措置が取られている地域ということもあり、これまでにはない静かな週末の中でのレースとなった。

今シーズンのスポーツランド SUGO は、ピットレーンの幅が広げられ、最終コーナー側からコントロールタワーまでのピットガレージ、ピット裏にあった車検場が一新され、広々と感じられるサーキットに生まれ変わろうとしている。また、ピットレーンの改修に伴い、ピットアウトの合流場所がこれまでの2コーナー立ち上がりから3コーナーの立ち上がりに変更、メインストレートの路面も改修された。

ウェットの開幕戦で惨敗を喫した当チームは、ウェットセットの見直しを図るなどして、第2戦の舞台、スポーツランド SUGO に乗り込んだ。昨シーズンのような嵐ではなかったが、今シーズンも予選が行われた土曜日は雨となった。

まだまだ、手探り状態のウェットセットだが、ライバルに食らいついていけるはず……。最初にアタックするAドライバーの内田は、これまでになく神経を集中させてコースに入る。午前中、降り続いていた雨だが昼前にほとんど上がっていた。しかし、予選が始まると、強くはないがポツリポツリと降り出す。どのチームも路面の水が少ないときにアタックしたい。このまま降り出すなら早めにアタックしたいが、この程度の雨量で20台以上のマシンが走っていれば、ライン上の水は飛んでいく。となれば、チェッカー寸前の方が路面状況はよくなる。とはいえ、全車がこのタイミングでアタックすれば、クリアは取りにくいし、最悪の場合、飛び出すマシンがいて赤旗、終了という可能性もある。

当チームはコースオープンとほぼ同時にコースイン。しっかりとタイヤを暖めて、内田の判断でアタックに入る。すぐにスープラ勢の一角が1分39秒台を叩き出す。開幕戦で2位に入っている5次元のAMGも39秒台。内田は41秒台。「タイヤが暖まり、アタックに入ったら引っかかってしまって……。2LAP 続けて、引っかかったのはきつかった」と話す。タイヤの美味しいところは終わりだしていたが、アタック3LAP目に1分39秒926にまで詰める。5次元にはわずか0.22秒届かず、3番手に終わるが、ロガーがはじき出すデータでは、エンジニアが驚くほど完

べきなアタックだった。

内田の走りに B ドライバーの山内が燃えないわけがない。もてぎでの悔しさもあり、気合が入る。結果から報告すると、B ドライバーの予選は底力を見せたジネッタ、さらに金曜の走行から速さを見せていた 30 号車の AMG が 1 分 37 秒台。3 番手以下 12 番手までの 10 台が 38 秒台という熱い戦いとなった。雨は上がっていて回復方向。とはいえ、ドライ用タイヤでのアタックは厳しい。それ以上に WET 宣言が出ているから、ウェットタイヤの使用セット数は自由。ライバルチームも 2 セット使ったのアタック。山内は 2LAP 目にその時点で 3 番手となる 1 分 38 秒 503 をマーク。さらにタイムを縮めるべく、タイヤ交換してアタックに入る。1 分 38 秒 547 にとどまり、最初のタイムを更新できなかった。

マシンから降りた山内は悔しがる。「1 コーナーでのブレーキングでミスった」と……。同様に山内の走行データをロガーでチェックすると、1 コーナーでのブレーキングミスでのロスは約 0.5 秒。他はほぼ完璧に近い走りをしているので、37 秒台にのせ、ポジション的には 3 番手も可能ただけに、山内はこれまでにない悔しさを見せていた。

結果的に当チームは総合の 4 番手で予選を終えた。

連勝に向けて、最高のお膳立てとなった。

[決勝／4 月 18 日 (日)] 3 号車 2 位

スタート 13 時 57 分 57 秒 チェッカー 16 時 58 分 25 秒

路面コンディション ドライ

16 時 16 分 29 秒に S/C 導入

16 時 25 分 07 秒に赤旗提示

16 時 43 分 00 秒に S/C コントロールにより再開 16 時 48 分 48 秒に 再スタート

夜半過ぎに雨は上がったが、決勝当日は強い春風が吹き荒れる 1 日となった。

今回のレースは 3 時間。各ドライバーの乗車時間は、内田（ジェントルマン）が 50 分以上、山内（プラチナ）72 分以内、エキスパートの菅波は自由。ピットストップは 2 回以上。当チームはこれまで通り、山内がスタートを担当する。

午後 2 時前スタートが切られる。オープニングラップで 2 番手からスタートの AMG が後退。まずまずのスタートを切った山内は 3 番手にポジションを上げ、500 号車の AMG に食らいつく。後方にはアストン、23 号車の AMG が続き、4 台による 2 番手争いのバトルが繰り広げられる。逃

げるスープラだが 23LAP 過ぎに速さを見せるアストンと 23 号車の AMG がトップに躍り出る。山内は 500 号車の AMG と 4 番手争いを繰り広げる。

35LAP 過ぎに 2 番手につけていた 23 号車の AMG がピットストップ。40LAP 前後から各車ピットに滑り込んでくる。当チームは 43LAP 目にピットストップ。当初、予定していた内田ではなく菅波に変更して、8 番手でコースに送り出す。トップで逃げる 47 号車は 53LAP までピットストップのタイミングを遅らす。全車のピットストップが終わったところで当チームは 3 番手。目の前を走るのは 500 号車。0.5 秒のバトルが繰り広げられる。一般的にはバトルが始まると、ラップタイムが落ちだすことが多いのだが、500 号車とのバトルではラップタイムが落ちることなくハイペースのバトルが続く。67LAP 過ぎ、トップを走っていた 23 号車を 2 台で捕らえ、菅波は 2 番手に上がる。

75LAP 過ぎに 3 番手の 23 号車、さらに 500 号車もピットに滑り込んでくる。これで当チームは暫定のトップ。84LAP 過ぎに菅波から内田にスイッチ。さらにアストンも 2 回目のピットストップ。上位集団のピットストップが終わったところでのポジションは、23 号車がトップで内田がステアリングを握る当チームの AMG が 2 番手、500 号車、311 号車のスープラ、47 号車のアストンが続く。トップを走る 23 号車のドライバーは当チームでもステアリングを握っていた元嶋選手。登録上はエキスパートドライバーだが、その走りはプラチナクラス。3 番手の 500 号車はスーパーGT やトップフォーミュラでも活躍している金石選手。もちろん、プラチナドライバーだ。プレッシャーのかかる中、内田は非凡な走りを見せる。23 号車との差は少しずつ広がりだすが、500 号車との約 5 秒差は守りつつの走り。

そんな緊迫した状況の中、SP コーナー先で多重クラッシュ。S/C がコースに入る。これで 6 秒近く引き離されていたトップの 23 号車との差は事実上のゼロ。しかし、3 番手の 500 号車との差もゼロとなってしまう。ドライバーのランクやマシンの状況を考えると、かなり厳しい状況に追い込まれてしまった。その直後に赤旗提示。チェッカーまで約 30 分弱。このタイミングでの赤旗だと、このままレース終了……。正直に言えばウレシイの一言だ。実際、ピットに戻ってきた内田も笑顔だった。

ところが 16 時 43 分にレース再開がアナウンスされる。

慌ただしくスタート準備が行われる。すでにマシンから降りて見守っていた内田、菅波。もちろん、メカニックを始めとするチーム関係者全員が異様な雰囲気にも包まれた。

内田にしてみれば、前後のドライバーはプラチナ。いつ、ポジションを落としてもおかしくない中、必死の走りでポジションを守っていた。そこでの赤旗。状況を考えれば、このままチェッカーになってもおかしくなかった。張りつめていた気持ちから解放されて当然だ。それが……。トップとの差は確かにゼロになったが、後方との差もなくなった。それだけではない。圧倒的な速さを持つ 47 号車も後方にいる。今回はグループ分けされての 3 時間レース。当チーム

とライバルマシンの中に ST5 クラスのマシンなどいない。本来のスタートと変わらない状況での再スタートだ。S/G がコントロールする中でタイヤをしっかり暖めて、最高のスタートを切らないと、その時点でやられてしまう。

「エッ、やるの？」今までにない顔を見せた内田だったが、数秒後にはヘルメットを被り直して、ストレート上に止めてあるマシンに乗り込む。

チェッカーまで 7LAP のスプリントレース。内田だけでなく、どのドライバーも前を走るマシンをパスしたい。後方からマシンにポジションを譲るわけにはいかない。言葉では表現できない凄いバトルがあちこちで展開された。

見事、逃げ切った内田は 2 番手でチェッカー。最高の笑顔でマシンから降りてきた内田は、待ち受けていた山内と菅波、メカニックと喜びに慕った。でも、少し落ち着くと「こんなに疲れたレースは初めてかな。『やるしかない』と思っていったけど、よくよく考えると、まわりはみんなプラチナドライバーばかり。とにかく、結果につながって良かった」と、疲れ切った笑顔!? で振り返っていた。

この 2 位でランキングは 7 番手にアップ。トップとのポイント差は 16 ポイントあるが、次のレースは富士 24 時間。上位入賞すれば、まだまだチャンスはある。

エンドレスらしい最後まであきらめない走りで、次戦以降もしっかりと戦っていきたい。

すでにご承知されているかとは思いますが、次戦の富士 24 時間は当初発表されていた 6 月 4~6 日から 5 月 21~23 日に変更されているので、応援に駆けつけていただけるファンの方々は間違われないう、よろしくお願いいたします。